

特別史跡 巢山古墳保存活用計画 【概要版】



巢山古墳

奈良盆地の西部に位置する馬見丘陵の中央部に築かれた前方後円墳で、周濠が完
存し、外側には外堤がめぐる。

壮大で整美な墳丘は、前方後円墳の代表例として、学術上価値が高く、特別史跡
に指定されている。

計画の目的・期間

巢山古墳の文化財としての価値をより高めることを目指し、保存と活用を円滑に図っていくため、基本的な考え、方針、方策等を定めた保存活用計画を策定する。

計画期間は、令和8(2026)年4月1日から令和18(2036)年3月31日の10年間とする。

計画の対象範囲

計画の直接的な計画範囲は特別史跡指定地とする。ただし、周辺には巢山古墳も含まれる馬見古墳群が分布、隣接して奈良県営馬見丘陵公園および竹取公園が整備されている。よって、活用等については隣接地の古墳・公園施設も含めて記述する。

史跡の概要

■名称：特別史跡巢山古墳

■所在地：奈良県北葛城郡広陵町

■指定年月日：昭和2年(1927)4月8日〔当初指定/墳丘・周濠〕

昭和27年(1952)3月29日〔特別史跡指定〕

平成元年(1989)1月9日〔追加指定/外堤〕

■指定面積・所有

面積 (㎡)	墳丘 (㎡)	周濠 (㎡)	外堤 (㎡)	所有
73,276.97	20,557	29,757.77	22,962.2	広陵町

■規模等

巢山古墳は馬見古墳群の中で最大の規模を誇る。南北方向の丘陵東斜面を利用し、丘陵側を大きく掘り込み構築された三段築成の前方後円墳で、墳丘規模は全長約220m、後円部径約130m、高さ約19m、前方部先端幅約112m、高さ約16.5mで、左右のくびれ部に方形の造り出しが取り付け、前方部頂部には方形壇がある。前方部と後円部には竪穴式石室が築かれている。

■発掘調査の成果

周濠部の発掘調査では、前方部西側の中央部で周濠内に張り出す出島状遺構が見つかり注目された。出島状遺構の各辺斜面には葺石が施され、頂上には白礫が敷かれ、形象埴輪の蓋形7点、家形7点、盾形3点、冢形4点、柵形10点以上が配置されていた。さらに二方向の隅角に半島状の突出部、その間に州浜状の石敷き、そして墳丘側には通路が設けられ、半島状の突出部には水鳥形埴輪が3基設置されていた。

また、巢山古墳の周濠の底から直弧文を浮き彫りにし赤色顔料を塗布した準構造船の部材が発掘され、特別に飾られた船が死者の遺体を運ぶ乗り物として利用されたことが明らかになった。

崇山古墳の本質的価値

史跡の指定説明文や調査等で明らかになった内容から、特別史跡崇山古墳の本質的価値を以下のようにまとめることができる。

1) 古墳時代中期初頭の大規模前方後円墳

- ・奈良盆地西部、馬見古墳群の中で最大の規模を誇る。

2) 古墳祭祀を考える上で極めて重要な遺跡：周濠水面下の遺構が解明された数少ない古墳

出島状遺構

- ・周濠内に張り出した出島状の遺構が検出された。突出部の先端に水鳥形埴輪を置き、頂上部に蓋・家等の形象埴輪を配し、王の居館を再現しているとみられる。

史書に登場する喪船

- ・この船は『古事記』にある「喪船」（遺骸を載せる船）と考えられる。また『隋書』倭国伝に「死者は棺槨に納める、…貴人の場合、三年間は外で殯し、…葬儀に及ぶと、屍を船上に置き、陸地にこれを牽引する、あるいは小さな御輿を以て行なう。」とあり、史書の記述を裏付ける葬送儀礼に使用された遺物である。

水面下の調査により多くの情報を提供

- ・全長200mを超える大規模前方後円墳としては、周濠水面下にある墳丘裾部と外堤裾部をほぼ全面的に発掘した最初の事例である。大王墓等水を湛えた大型前方後円墳における、水面下の情報を知る手がかりとなった。



出島状遺構と復元埴輪想定位置



準構造船復元

3) 墳丘・周濠・外堤が良好に残存する希少な古墳

- ・周濠は水田や灌漑用溜池として長らく利用されてきたものの、墳丘、周濠、外堤とほとんど大きく改変されることなく保存状態が良好である。水をたたえる周濠越しに古墳全周を見渡すことができ、古墳の本来の規模や形を現地で体感できる大規模古墳である。

■史跡の保護に資する周濠の水景観

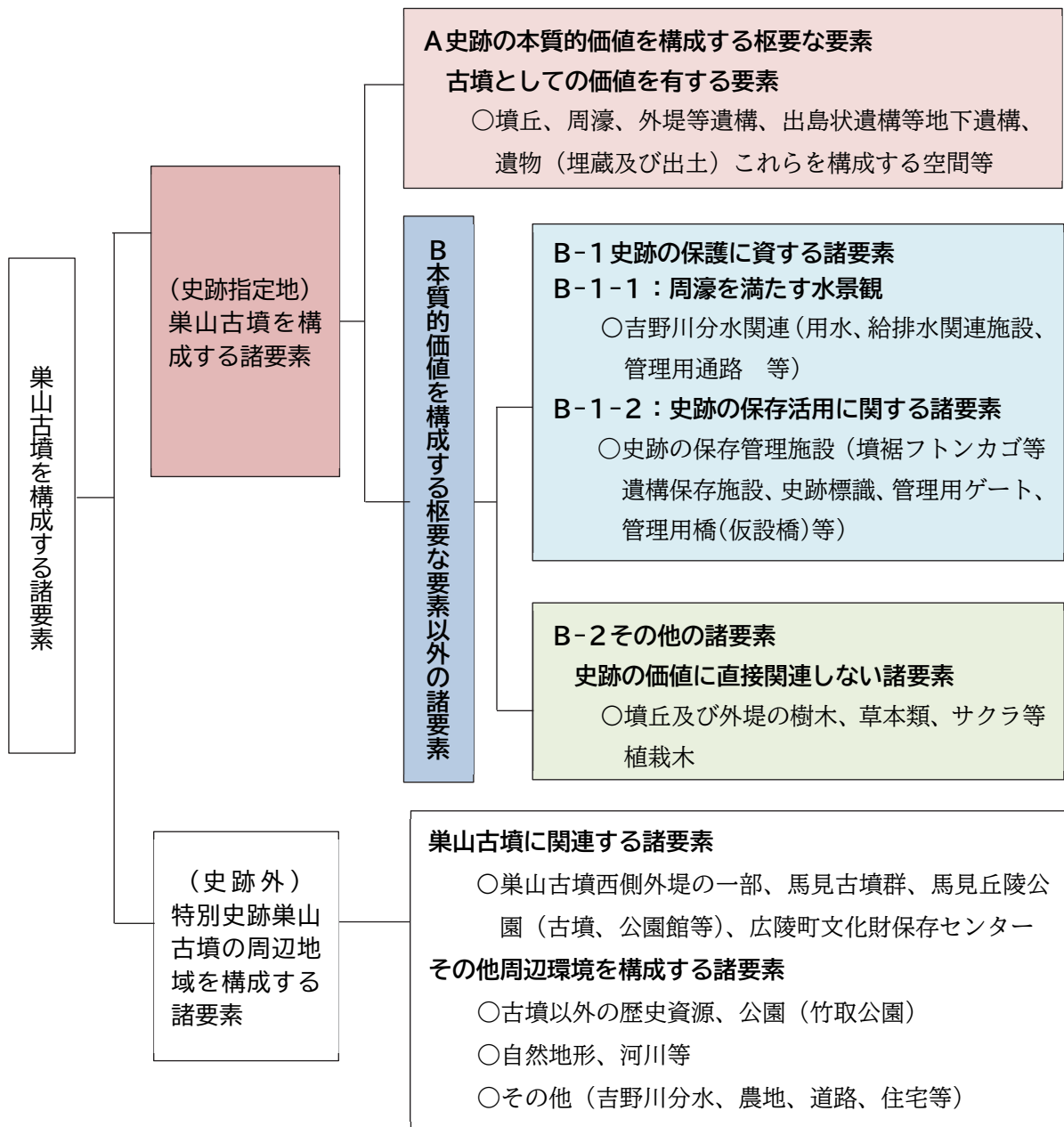
史跡の本質的価値と一体的な要素をなすものとして、周濠の水景観があげられる。

<周濠の役割と景観の変化：灌漑用溜池としての役割と歴史的景観の形成>

周濠は、築造当初、此岸（外堤）と彼岸（墳丘）を隔てる重要な結界の役割を果たしていたと考えられる。そして、奈良時代以降は農業用水として利用されるようになり、地域の生産基盤である農業を支えてきたため池（水）景観として現在まで継承されている。

この景観は水の多少があるが、いくなれば築造当時の周濠の水景観を引き継ぐもので、水の供給先である周辺の水田と一体となって歴史的文化的景観を形成している。

史跡の構成要素



特別史跡崇山古墳及び周辺を構成する要素の区分



葺石



出島状遺構



遺物(埴輪)



史跡標識(手前)・墳丘後円部(奥)



馬見丘陵公園より巢山古墳



墳丘・周濠(東より北東方向)

大綱・基本方針

特別史跡巢山古墳の保存活用の大綱と基本方針を以下のように設定する。

大綱

墳丘・周濠・外堤が完存する貴重な大型前方後円墳の 特徴を活かした保存活用

地域と共にある古墳としての保存活用

- 地域の誇りや財産として、地域住民と協働し、古墳を愛してもらえる活動を促進する。
- また、その活動を通じて 地域住民をはじめとして人々のつながりを構築し、価値の共有化を図っていく。

基本方針

- ① 特別史跡指定され、高い価値を有する巢山古墳の価値を確実に保存し後世に継承する。
- ② 巢山古墳は墳丘形態が良好に遺存していることから、保存を第一にイベント開催時等以外は一般の来訪者の立入を制限する。そのため外堤を視点場として墳丘形態等が理解できるよう条件を整える。
- ③ 保存管理の徹底を図るために、維持管理に重点を置いて現在の良好な環境の維持や必要に応じた改良を図る。
- ④ 現状の巢山古墳の姿（樹林に囲まれた墳丘、水を湛えた周濠等）を基本として維持し、遺構に影響の恐れある場合は状況に応じた改善策を講じる。
- ⑤ 現状の巢山古墳の姿を活かしながら、学校教育、社会教育、まちづくり等に活用する。現地での見学はもとより、これまでの調査等で得られた巢山古墳に関する情報を様々なツールで発信しその価値の周知、理解に努める。
- ⑥ 価値の解明や活用に資するために各種調査が必要な場合は、計画的に実施する。
- ⑦ 遺構の保存のための整備はもとより、現況を活かした活用のための必要な整備を図る。
- ⑧ 大規模古墳の保存活用のために、隣接する県立公園や町内関連各課、関連施設、町民等活動団体との協力連携を図る。

保存管理の基本方針

- 崇山古墳の特徴を活かした保存を図る
- 墳丘の保存管理を徹底するため、原則として墳丘への立入を規制する
- 特別史跡指定地であることの周知、管理に必要な施設を設置する

活用の基本方針

- 崇山古墳の特徴を活かした活用を図る
- 崇山古墳の活用により郷土愛の醸成、文化財の保存・活用への興味を育む
- 教育分野、専門機関、地域住民との協働・連携により崇山古墳を活用した地域おこしに取り組む
- 崇山古墳周辺の古墳等文化財のネットワークによる相互活用を図る
- 崇山古墳の活用に資する情報の発信に努める

調査の基本方針

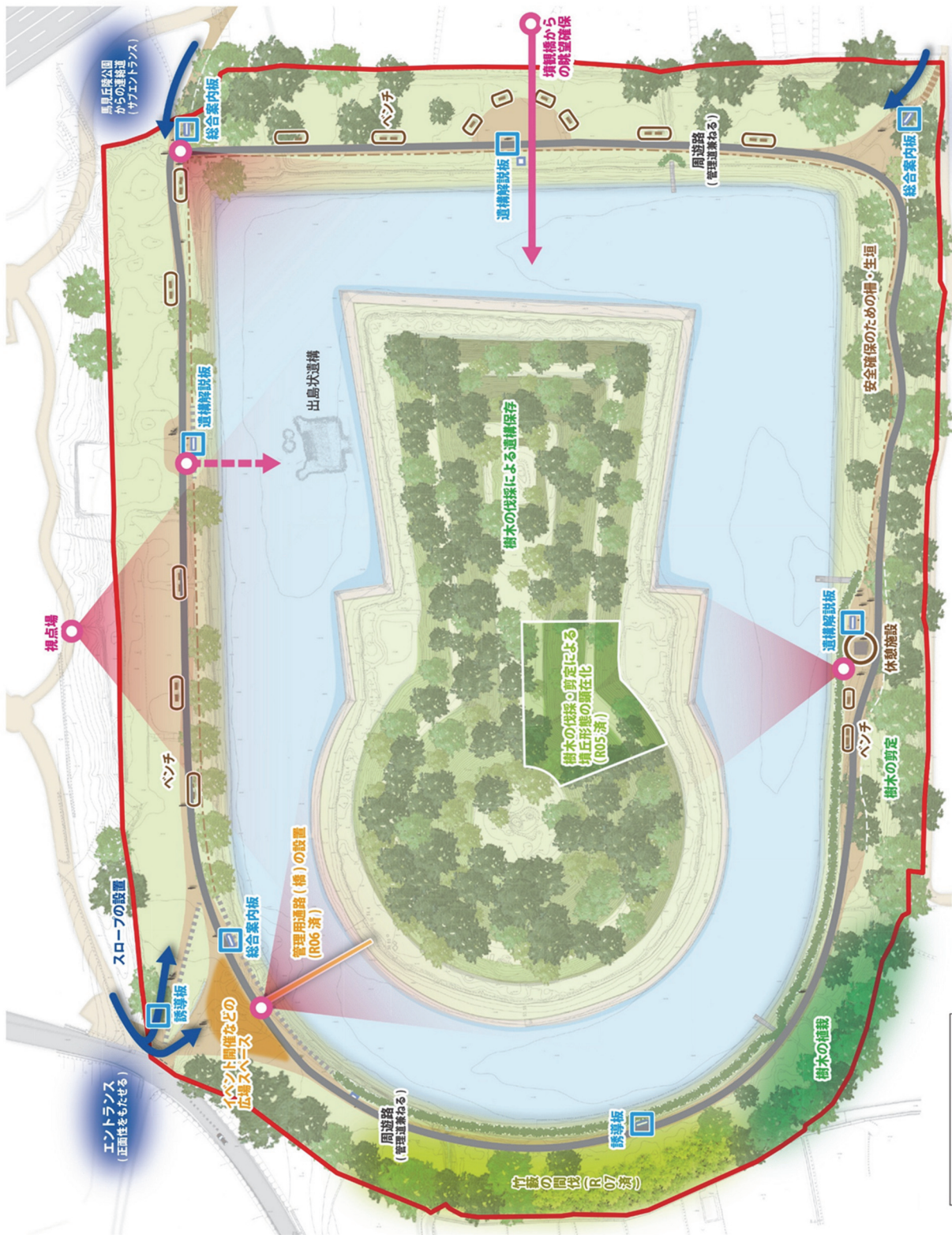
- 崇山古墳の保存のために必要な調査を実施し調査成果を保存活用に反映する
- 崇山古墳の実態を解明し、価値を高めるための調査を実施する
- 崇山古墳が有する様々な価値を有効に活用するため、必要な調査を実施する

整備の基本方針

- 築造当時の形態が良く保存されている特徴を活かした整備を図る
- 出島状遺構等特徴的な遺構を周知するための整備を図る
- 保存と活用のバランスを考慮した整備を図る
- 来訪者の安全性・利便性などの確保を図る
- 県営馬見丘陵公園や竹取公園、周辺地域の関連文化財等との有機的な連携を図る

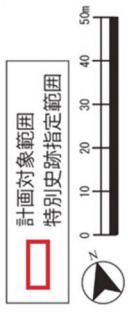
運営・体制の基本方針

- 崇山古墳の保存活用のため、広陵町及び関係機関等との連携、運営体制の充実・強化を図る。
- 地域の歴史を共有する近隣市町村とも連携を図りながら、崇山古墳の一体的な保存・活用・整備を推進していく。



馬見丘陵公園からの連絡道 (サブエントランス)

整備概念図



築山古墳と関わりの深い周辺環境



馬見古墳群

町の西部に広がる馬見古墳群は、4～5世紀に古墳が築造された。2市3町に跨る南北7 km、東西3 kmの南北に細長い丘陵地一帯で250基以上の古墳が築かれており、その中でも最大規模で馬見丘陵の中央部に位置するのが築山古墳である。

大和平野のため池と吉野川分水

広陵町の位置する大和平野(奈良盆地)は、年間降水量が少ないため恒常的な水不足に悩まされ、水不足を解消するために多くのため池が作られてきた。現在も約4100か所が残っており、広陵町内にも70か所を超えるため池がある。

江戸時代からの悲願であった吉野川から大和平野へ水を引く吉野川分水は、昭和27年(1952)から昭和62年(1987)の工期をかけて完成し、現在安定的に豊かな農業用水を確保している。水路は大和平野に張り巡らされ、広陵町もその恩恵を受けている。

築山古墳の周濠はアジ池と呼ばれる古くからの農業用ため池で、吉野川分水からの水を引き入れ、周辺の農地へと供給する役割を果たしている。

馬見丘陵公園と竹取公園

築山古墳北方の県営馬見丘陵公園では、馬見古墳群を構成する古墳が保存されており、見学することができる。公園の南エリアは築山古墳と隣接し、一段高い位置にあることから、南端から築山古墳の西側面を一望することができる。また、公園内を連絡する歩道橋からは、築山古墳前方部を見渡すことができる。56.2haと広大であり、各所に四季の花が植えられ、一年を通して花のある景観を楽しめる。チューリップ、花菖蒲、ひまわり、ダリアの開花に合わせたイベントや、冬のクリスマスイルミネーションも恒例となっている。園内には計4か所、982台分の駐車場がある。

竹取公園は馬見丘陵公園に隣接した面積約6.5haの都市公園で、広場や遊具施設があり、近隣住民の憩いの場、健康づくりの場として利用されるとともに、大阪方面からの遠足の名所として有名である。また、広陵かぐや姫まつりなどのイベント会場としても知られている。

特別史跡築山古墳保存活用計画 概要版

令和8年(2026)3月

発行：広陵町教育委員会
〒635-8515 奈良県北葛城郡広陵町大字南郷583番地1
TEL：0745(55)1001